

原 著

健康診断ニヨリ偶然發見セラレタル 包裹性氣胸例

大阪市立衛生試驗所(所長 下田博士)

技師 醫學博士 小林 五兵衛

(昭和14年2月10日受領)

古來特發性氣胸例稀ナラズ、加フルニ其大多數80—90%ニ於テ肺結核ヨリ續發スルモノタルハ諸學者ノ一致ヲ見ル所タリ (Rose, Gerhardt, Biach, 渡邊)。尙之ガ廣狹、癒著ノ如何ニヨリ全氣胸、限局性(包裹性)氣胸ニ分類セラル、ハ既ニ知盡セラル、所ニシテ、肺結核患者ニシテ全氣胸ヲ證明スルモノ諸家統計數値區々ナルモ大體ニ7—8%ニ觀取セラレ (Eichhorst Weil, Drasche)、部分性或ハ包裹性氣胸ニ至リテハ全肺結核ノ82%ヲ占ムルト云フ (Barbow.)。而シテ古來「エッキス」光線診斷ニヨリ肺空洞トシテ擧ゲラレル一部ハ此部分的氣胸ヲ包含スルハ疑ナキ事實ナルヲ酒井氏ハ指摘シタリ。之ガ發生機序タルヤ或ハ卒然トシテ來リ或ハ潛在性ニ來リ、大方ハ胸部激痛、壓迫感、脈膊頻數、「チアノーゼ」、冷汗ヲ伴ヒ一見重症ノ觀ヲ呈スルヲ例トス。直接的動機ニ關シテモ身體的努力、咳嗽、怒號、大笑等報告例枚舉ノ煩ニ堪エズ。余ガ茲ニ擧ゲントスルハ最近2年間當衛生試驗所健康診斷ニ當リ「エッキス」光線撮影ノ結果偶然發見セラレタル包裹性部分性氣胸例ニシテ而モ1例ハ漿液性氣胸ヲ有シ是等發生動機ニ溯リ病歴ヲ探索セルモ何等ノ手掛リヲ發見スルニ至ラズ、爾來日常執務ニ支障ヲ認メズ孜々トシテ勤務セルモノニシテ、加フルニ之ガ初發兆候ヲ缺ク點所謂潛在的特發性氣胸ト稱スベキモノニ屬シ興味ヲ以テ目下經過觀察中ノモノナ

リ。

【例1】 ██████████ 43歳 教員

家族歴 祖父母ハ老衰ニテ死亡、父母、兄弟健在、6人ノ子ノ親ナルモ、子ハ何レモ健在、他ニ認ムベキ遺傳關係ヲ證明セズ。

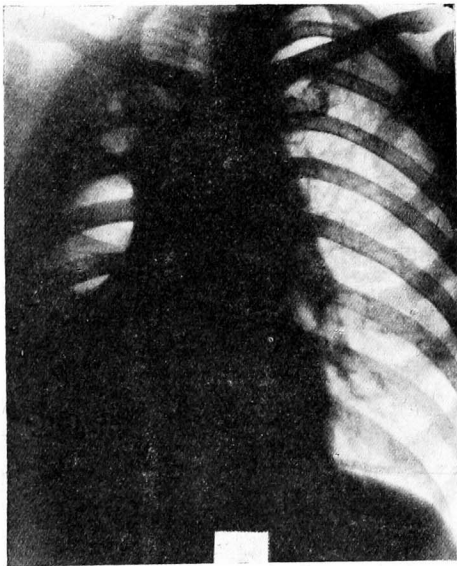
既往歴 患者ハ6人兄弟ノ第2子ニ當リ、生來健全ニシテ著患ヲ知ラズ。少量ノ酒ヲ嗜ムモ喫煙セズ。

現在症 5年前高熱ヲ發シ錆色痰ヲ咯出シ肺炎ト診セラレ、300日程臥牀セルコトアリ。越エテ翌年後側肋膜炎ヲ注意セラレ、醫師ニヨリ試驗穿刺ヲ受ケシモ排水ヲ見ザリシト。昭和12年6月2日ニハ當衛生試驗所定期身體檢查ニ際シ「エッキス」光線寫真撮影ニヨリ偶然ニ右側氣胸像ヲ發見セラレタリ。當時ヨリ現在ニ至ル即チ昭和13年12月17日ニ至ル自ラハ何等ノ自覺症ヲ認メズ。咳嗽、咯痰、盜汗ナシ。特ニ削瘦セル如キ様子ナク1日4里以上ノ「ハイキング」ニモ堪エタリト云フ。嘗テ特發性氣胸發生ニ見ル如キ胸部疼痛、呼吸困難、胸部壓迫感ノ如キハ經驗セル事ナク唯身體ノ屈伸ニ際シ右胸下部ニ牽引感ヲ訴ヘルコトアルニ過ギズト云フ。食慾、睡眠共ニ可良、便通1日1行。體溫攝氏36.5。

患者ハ大體ニ削瘦型ナルモ榮養左程不良ト云フニ非ズ。脈膊85、緊張可良、全身何處ニモ淋巴腺ノ腫起セルヲ見ズ。口腔異常ヲ認メズ。胸部一般ニ右胸側ハ反對側ニ比シ稍；扁平ニシテ肋間幅員狹少、陷沒セル狀が見ラレ、呼吸運動曲線ハ遅徐ナリ。心臟濁音界ハ左右兩界共劍狀骨兩緣ヨリ2橫指位ニアリ、心尖臍動ハ寧ロ右胸側ニ於テ著シ。右側肺部一帯ニ前後面共打診音短、聽診上該側呼吸音微弱、聲音振壇亢進スルモ

羅音、摩擦音ノ如キハ證明セズ。腹部、脚部、異常所見ヲ見ズ。腱反射正常。尿所見ハ淡黄褐色透明。反應中性ニシテ蛋白、糖ヲ證セズ。「ヂャツォ」、「ウロピリン」、「インヂカン」何レモ陰性、沈渣ニ異常所見ヲ見ズ。尿所見ハ黄褐色固形消化可良便、寄生蟲卵ナシ、喀痰所見ハ粘稠黄色ナルモ結核菌ハ證セズ。マントー氏皮内反應弱度陽性。血液所見ハ赤球 2,726,000、白血球 2,366、血色素量 70% (ザリー)、血色素係數 0.9、白血球種中性嗜好 66.1% (分葉型 55.5%、桿狀型 10.6%)、「エオジン」嗜好 5.6%、淋巴球 25.5%、大單核細胞及移行型 2.8%、赤血球沈降速度 92 (1 時間)、120 (2 時間)、122 (24 時間)、中等値 90.5、里氏、マイニッケ及比村田氏反應何レモ陰性。

X 光線透視所見 右側肺野ハ一般ニ暗黒陰翳ヲ呈シ氣管竝ニ心臟ハ強度ニ右方ニ轉位ス。該側ニ於テ第 3 乃自第 5 肋間ニ互ル卵圓形手拳大ノ明視野ヲ認メ、該視野内氣管枝紋畫皆無ニシテ周圍トハ截然ト區別セラレ呼吸運動ニヨルモ視野及ビ明暗ノ變移ヲ見ズ。左側肺門氣管枝陰翳幾分著明ニ透視サル、モ胸腹膜界運動其他ニ異常所見ヲ見ズ。其後 3 ヶ月間ノ間隔ヲ以テ 2 回透視検査ヲ施行セルモ後所見ニ變異ヲ認メズ (寫眞參照)。



診斷 右陳舊性肋膜炎竝ニ該側特發性氣胸

【例 2】 53 歳 使丁

家族歴 父ハ老衰、母ハ赤痢ニテ死亡、兄弟 5 人内 3

人死亡セルモ結核ハナシ。子供 2 人ヲ持チシモ幼ニシテ 1 人ハ肺炎、1 人ハ「ヒキツケ」ニテ死亡、他ニ遺傳關係ノ證スベキモノナシ。

既往症 患者ハ 17 歳ノ折左側脚部及ビ肩部ニ化膿瘻ヲ得、手術ヲ受ケシ事アリシノミ、他ニ著患ヲ知ラズ、晩酌ハ 1.5 合宛嗜ムモ喫煙癖ナシ。

現在症 昭和 13 年 5 月時分ヨリ常ニ左側腰部倦怠感、不自然ナル體動ニヨル左側胸部ノ牽引感ヲ訴フル事アリシモ自ラハ何等苦ニセズ現在ニ至ル、日常勤務ヲ續ケント云フ。最近ニ至リ飲酒時輕度ノ咳嗽、喀痰ヲ證スルノミ。食慾モ可良ニシテ疲勞感、盜汗、熱發感ノ如キナシ。現在ニ至ル嘗テ胸痛、呼吸困難、發作ノ如キ重病感ハ覺エザリキト云フ。便通 1 日 1 行、睡眠可良、昭和 13 年 9 月 20 日定期身體検査施行ノ爲、當衛生試驗所ヲ來訪セリ。

身體削瘦、榮養中等度ニ減退シテ貧血相ヲ呈ス。脈膊 100 ヲ算シ稍々小ナルモ緊張可良ナリ、顔面ニ於テ眼窩著シク陥没セル狀ヲ認メルモ頭部異常所見ヲ見ズ。全身淋巴腺腫起ヲ認メズ。胸膈、左側ハ反對側ニ比シ稍々狹少、特ニ上半部ニ肋間稍々陥没、脊椎亦側變狀ヲ呈スルヲ見ル。該所呼吸運動曲線遅徐ナリ。一般ニ左側肺部特ニ鎖骨上窩ヨリ肩胛骨上半部ニ互リ打診音短、該所呼吸氣延長銳利、一部打診音鼓性、有響性金屬音 (Succussio Hipoclastis) ヲ聽取ス。下半ニ至リ著シキ濁音ヲ呈シ心臟濁音界ニ移行シ、該所聲音振壇ハ亢進ス。右肺鎖骨上窩、肩胛骨中間ニ互ル打診音短時ニ小水泡性羅音ヲ聽取ス。腹部異常ヲ見ズ、脚部ニ於テ腱反射稍々亢進ヲ示ス外異常所見ヲ認メズ。後腋高線上第 5 肋間ニ於テ試驗穿刺施行、黄赤色粘稠液約 1 握ヲ排シタリ。液ハリバルタ氏陽性赤球ヲ證明スルモ病原菌ヲ發見セズ。尿所見ハ淡黄褐色透明酸性尿、蛋白、糖ヲ證明セズ。「ヂャツォ」、「ウロピリン」陰性、「インヂカン」弱陽性。沈渣中扁平細胞少許、赤球、白血球ヲ證ス。レフレル氏染色淋菌ヲ發見セリ。尿所見ハ黄褐色泥狀便、寄生蟲卵陰性ナルモ消化稍々不良。喀痰所見ハ黄色粘稠性、結核菌ヲ證ス («ガフキー」1 號)。マントー氏皮内反應ハ中等陽性。血液所見ハ赤球 3,510,000、白血球 2,520、血色素 65%、血色素係數 70、白血球種、中性嗜好 78.4% (分葉型 23.0%、桿狀型 55.0%、幼弱型 0.4%)、「エオジン」嗜好 2.6%、淋巴球 14.4%、大單核細胞及ビ移行型 4.6% テ中等度

左遷性、赤球沈降速度 87(1 時間)、125(2 時間)、137(24 時間)、96.75 中等値、ワ、セルマン、マイニッ、村田氏反應何レモ陰性。

X 光線透視所見 左肺一般ニ狭少暗翳ヲ有シ鎖骨下ニ緩ニ長キ明視野ノ存在ヲ見ル。該視野内氣管枝紋畫ヲ見ズ、呼吸運動ニヨル形態竝ニ明視野ノ變異ヲ認メズ。下界ハ水平ナル濃厚陰翳ニヨリ界セラレ、患者體位變換ニヨル表面波動狀況ガ觀取サル。右肺ハ肺門ヨリ放射狀ニ著シキ浸潤像ノ擴大ヲ示シ、特ニ其ノ肺尖部竝ビニ中葉部ニ著明ナルヲ見ル。爾來 3 ヶ月ヲ經過シ同年 12 月 18 日所見ニヨルモ右ト異動ナシ 寫眞參照。

診斷 左側特發性漿液性氣胸、陳舊性肋膜炎及ヒ肺浸潤。



總 括

前記 2 例ハ何レモ X 光線竝ニ理學的所見ヨリ部分的包裹性氣胸ニ屬スルハ明ニシテ、一ハ既往症ニ於テ管テ肋膜炎ヲ有セシ外兩者共發生動機ニ於テ胸部牽引感以外何等ノ自他覺症ヲ缺除シ、潛行性ニ發來セルモノニシテ當所ノ健康診斷ニヨリ偶然發見セラレタルモノナリ。特發性氣胸ノ發生病理ニ關シ古來學者ニヨリ幾多ノ説ガナサレ、或ハ局所ノ先天性耐壓薄弱説ヲ持シ(Hohener, Morawitz)、或ハ後天性發育制止(Schmink)乃至ハ幼時性治癒癆痕説(Spitzenblasennarben-Theorie, Fischer)ヲ稱シ Friesdorf ハ特發性氣胸ノ發生原因トシテ肺氣腫竝ニ先天性氣管枝擴張症ヲ舉ゲテ結核ノ存在ヲ否定シ、坂上竝ニ堀江ハ結核基因説ヲ持シテ讓ラズ。該氣胸ノ發生ヲ以テ肺結核空洞壁ノ呼氣壓ニヨル破壊ニ歸スベキモノト稱セリ。Reiche ハ身體的勞作ナクシテ起レル特發性氣胸ヲ以テ肋膜炎下結核ガ其原因ヲナスモノナリトス。而シテ勸柄ハ氏ガ經驗セル特發性氣胸ノ 5 例ヲ舉ゲテ肋膜炎ノ穿孔原因ヲ以テ肺組織ノ破壊ニ歸スベキモノトシ、之ガ成因トシテ肺表面ト肋膜トノ癒著

剝離及ビ例ハ臨牀的ニハ證シ得ザルモ肺組織ニヨル微細ナル病理破壊ニヨルモ尙氣胸發生ニ預ルモノナリトセリ。Vojda ハ特發性氣胸例 5 例中 2 例ノ乾性竝ニ濕性肋膜炎ノ經過後發生セル氣胸例ニツキテ肋膜組織硬化ノ結果該所表面疎糙加フルニ石灰沈著ニヨル脆弱性ヲ以テ成因ト見做セリ。

前記余ガ 2 例ヲ以テ云々スルハ當ラザルモ、元來特發性氣胸ノ統計數値ヨリ見テ頻度ニ於テ結核ニ續發スルコト多キ點竝ニ之ガ肋膜炎ノ合併症トシテ古來重視セラレシ點ヨリ推シ、結核性疾患ト因果關係ノ存スルハ否定シ得ザルバク、一面慢性ニ經過スル肋膜炎ハ殆ド凡テニ於テ結核性素因ニ基クモノタルヤ又周知ノ事實ニ屬ス。而シテ古來報ゼラル、所ハ肋膜炎性癒著ニヨリ包裹セララル、部分性氣胸例ハ大部分ニ於テ潛在性或ハ自然性ニ來リ良性經過ヲトルモノ、如ク、時ニ之ガ年月ノ經過ト共ニ再發ヲ繰返ス例ニ遭遇スル(A. Graham)點ヨリ歸納シ、努責或ハ咳嗽等ニヨル一時性内壓亢進ヲ以テ内的原因トセバ身體的運動ニ伴フ肋膜炎性癒著ノ不自

然ナル牽引モ亦外的成因ノ一トシテ輕視スベカラザルニ非ルナキカ。記シテ以テ廣湖ノ批判ヲ

待ツモノナリ。

文 獻

- 1) **Rose**, Dent. med. Wochenschr. Nr. 43, 1899.
- 2) **Gerhardt**, Zeitschr. f. klin. med. 1904. Bd. 55.
- 3) 渡邊治雄, 治療及處方. 大正13年.
- 4) **Eichhorst**, Handbuch d. speciel. Pathol. u. Therap. 1914.
- 5) **Drasche**, Ztitl. nach Schröder.
- 6) 酒井繁, 愛知醫學會雜誌. 第36卷. 昭和4年. 195.
- 7) **Hohener**, Beiträg. Klini. Tbc 84, 6, 596. (1934).
- 8) **Morawitz**, Münch. med. Wochenschr. 80jG. 1861. (1933).
- 9) **Schmink**,

- Beitrag. patholog. Anat. 80, 692. (1928). 10)
- Fischer**, B. Z. Klini. med. 95, 3. (1922). 11)
- Friesdorf**, Münch. med. Wochschr. 1927, Nr. 39.
- 12) 坂上博一, 堀江孝, 「グレンツゲビート」. 8年. 11號. 1547. (昭和9年12月).
- 13) **Reiche**, Münch. med. Wochenschr. 1918. Lr. 25. 14)
- 鋤柄, 「グレンツゲビート」. 8年, 12號. 1547. (昭和9年12月).
- 15) **Vajda**, Tuberculosis (ung.) 1935, Nr. 7.